



知ろう学ぼう人権

災害時のネットリテラシー

令和6年1月1日に能登半島地震が発生しました。被害は甚大で、1年が経過した今でも復旧活動は続いています。そのような混乱した状況である地震発生後にSNS上で様々な偽・誤情報が流布されました。

【実際にあったSNSの例】

- ・二次元コードを添付して寄付金・募金を求める投稿
- ・公的機関による支援や施設利用に関する不確かな情報
- ・被災住宅について、不要なはずの住宅改修工事を勧める投稿
- ・不審者・不審車両への注意を促す不確実な投稿
- ・過去の別場面に酷似した画像を添付して被害状況を報告する投稿
- ・存在しない住所が記載されるなど、不確かな救助を呼びかける投稿

(出典…総務省)



大きな災害時は偽・誤情報が拡散されやすく、こうした投稿は被災者をさらに不安にさせます。また、救助や支援の妨げを引き起こすなど、二次被害につながる可能性があります。

災害時に適切な支援が被災者や被災地へ行き届くために、SNSなどの情報の真偽を確認することが必要です。情報の正確性が判断できない場合には安易に情報を投稿・拡散しないことが大切です。

【アマに惑わされないためのチェックポイント】

- ・情報源はいつ発信されたものか、信用できるものか
- ・発信者はその分野の専門家であるか
- ・その情報は他者や他の媒体ではどう言われているのか
- ・その画像は本物か

問合先 協働人権課人権推進担当

(1階④番窓口)

☎9339・1059

(特集)

2025大阪・関西万博の魅力に迫る！

大阪・関西万博が令和7年ついに幕を開けます！150以上の国・地域が集う一大イベント！このコーナーでは2025年日本国際博覧会協会の西本敬一さんから万博の魅力を語っていただきます。



令和6年10月末撮影

第7回 ユニークな万博建築を巡る楽しみ

ユニークな建築を巡るのも、万博の楽しみの一つです。最大の目玉は、世界最大級の本造建築物である大屋根リング。1周約2kmの巨大リングは、会場内のメイン通路であり、大屋根の上にも登れます。リングの上からは、世界中のパビリオンをまるで地球儀を見るかのように眺めることができます。特に、各国が独自に建てるタイプAと呼ばれる海外パビリオンは、

日本では、1970年大阪万博以来、55年ぶりに観覧できます。

若手建築家にもチャレンジの場を提供しています。1970年大阪万博では、当時30歳代の黒川紀章さんや磯崎新さんが万博に参加し、その後の活躍のきっかけとなりました。今回は20人もの若手建築家の方々が、トイレやステージなど、20カ所の施設の設計にチャレンジしています。



西本敬一

平成12年ハノーバー万博日本館で総合プロデュース業務に従事。大規模万博(ハノーバー、愛知、上海、ミラノ、ドバイ)を視察調査。ドバイ万博では現地調査を通じて全192パビリオンを分析。令和4年8月～日本貿易振興機構(JETRO)から2025年日本国際博覧会協会に出向。

問合先 日本国際博覧会協会総合コンタクトセンター ☎0570・200・066